

報告事項 4

愛知県幼児教育研究協議会の報告について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成28年3月28日

義務教育課

幼児教育の充実に向けた 保育者の資質と専門性の向上について〈概要〉

愛知県幼児教育研究協議会

平成27年4月からスタートした、子ども・子育て支援新制度では、「全ての子どもに、質の高い幼児期の教育・保育を総合的に提供していくこと」が方針として示されています。

愛知県幼児教育研究協議会では、平成26・27年度の2年間にわたり、質の高い幼児期の教育・保育の実現を図るために、「幼児教育の充実に向けた保育者の資質と専門性の向上について」を協議題とし、研究協議を進めてきました。

1年目である平成26年度は、幼児教育を取り巻く新たな動きの中で、「これからの幼児教育の充実に向けて」をテーマに、幼稚園・保育所がお互いの教育・保育についてより理解を深め、幼児期にふさわしい教育・保育の内容について検討しました。平成27年度は、「これからの保育者に求められる資質と専門性」を明らかにし、資質と専門性を向上させる具体的事例を検討し、報告書としてまとめました。

この報告書が、愛知県内の幼児教育機関で活用され、質の高い幼児期の教育が展開されていくことを願っています。

報告書の構成（目次）

- I これからの幼児教育の充実に向けて
 - 1 幼児期の教育・保育の中で大切にしたいこと
 - (1) 幼児教育を取り巻く大きな変革
 - (2) 教育と保育
 - 2 幼児期の教育・保育の「質」について
 - 3 幼稚園・保育所のそれぞれによさと取組について
 - (1) 愛知県の現状と課題
 - (2) 幼稚園のよさと保育所のよさ
 - (3) 理解を深めるためのQ & A
- II 保育者の資質と専門性の向上について
 - 1 保育者に求められる資質
 - 2 保育者に求められる専門性
 - 3 資質と専門性を向上させる具体例
 - (1) 幼稚園・保育所・認定こども園における課題
 - (2) 保育者の資質と専門性を向上させる六つの具体例Q & A



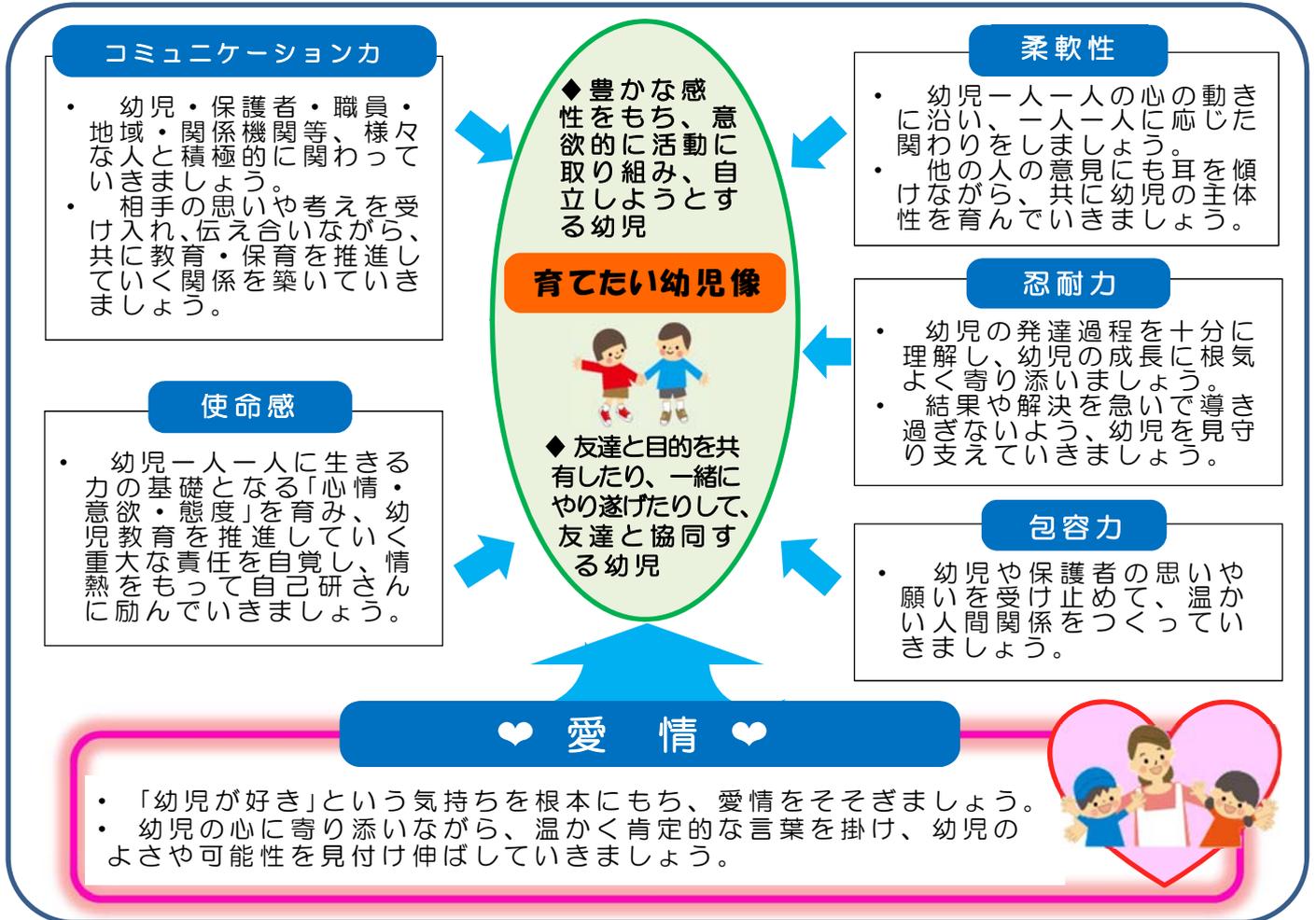
報告書の抜粋



Ⅱ 保育者の資質と専門性の向上について



1 保育者に求められる資質



2 保育者に求められる専門性

- ① 幼児を理解し、総合的に指導する力
- ② 具体的に保育を構想し、実践する力
- ③ 保育者集団の一員として協働する力
- ④ 特別な支援を必要とする幼児に対応する力
- ⑤ 小学校の教育を見通す力
- ⑥ 保護者（家庭）や地域住民（地域社会）との関係を築く力
- ⑦ それぞれの立場に応じたリーダーシップ
- ⑧ 人権教育についての理解



3 資質と専門性を向上させる具体例

- (1) 幼稚園・保育所・認定こども園における課題
- (2) 保育者の資質と専門性を向上させる六つの具体例Q&A

- ① 幼児理解のための保育カンファレンス
- ② 保護者との関わり
- ③ 指導計画作成の手順や考え方
- ④ 環境の構成の考え方
- ⑤ 保育者集団として高め合う園内外研修
- ⑥ 小学校教育につなげる三つの力（生活する力・かかわる力・学ぶ力）の指導

③ 指導計画作成の手順や考え方



Q1 指導計画作成の手順や考え方を教えてください。

A

<指導計画の手順>

<指導計画の考え方>

教育課程（幼稚園）
保育課程（保育所）
全体的な計画（幼保連携型認定こども園）

入園から修了までの幼児の発達過程を見通し、長期的な視野をもって編成します。

長期の指導計画

年・学期・期・月等を単位とした期間を見通して作成します。

短期の指導計画

週・日等を単位とした期間を見通して作成します。

幼児の実態

先週や前日の幼児の姿を記録や反省・評価を基に思い浮かべ、保育者や友達との関わり、遊びの様子、生活の状況などを把握します。

ねらい
内容

ねらいは、幼児に育ててほしい心情・意欲・態度です。内容は、経験してほしいことです。

予想される活動

幼児の発達や時期・遊びの様子・行事の関連性・活動の連続性等から活動の展開を予想します。

環境の構成

具体的に考えたねらいや内容や活動を基に、物や場所、数や量、配置などを幼児の姿を思い浮かべながら考えて準備していきます。

予想される幼児の姿

環境へどのように関わっていくか、どのように遊びを展開していくか予想します。

保育者の援助

ねらいや内容が達成されるように、一人一人の環境に関わる姿を思い浮かべながら、具体的な援助を考えていきます。

園における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環^(※)の中で行われるものです。指導計画は、このような循環の中に位置し、常に実践を通して記録を基に反省や評価を行い、改善を図る必要があります。

※ → P23 保育を構想し、実践するための取組

Q2 短期の指導計画の具体例を教えてください。

A

【具体例】 週案（3歳児 10月 第3週） ※一部を抜粋

幼児の実態	戸外で体をよく動かすようになり、追い駆けっこをしたり、遊具に登ったり降りたりして、保育者や周りにいる友達と楽しむようになってきている。室内では、段ボール箱を車に見立てて遊んだり、気に入った友達と一緒に曲に合わせて歌ったり踊ったりしている。		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者や周りの友達と一緒に、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 自分の思いを出し、したい遊びを楽しむ。 	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や周りの友達と一緒に、役になったり、踊ったり、遊具で遊んだりする。 ・ 保育者の表情や言葉から、順番や遊具の使い方などを自分なりに考えようとする。

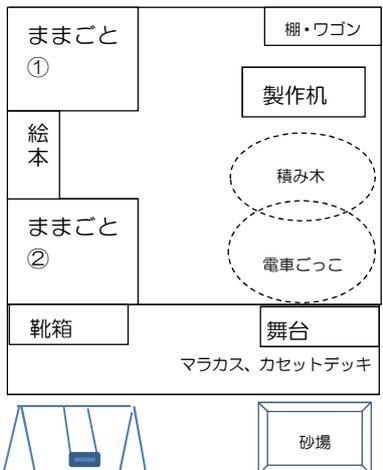
◎予想される活動 ☆環境の構成 ◇予想される幼児の姿 △保育者の援助

◎ 電車ごっこをする。

☆ 友達と同じような電車を作って遊べるように、一人ずつ入るとちょうどよい段ボール箱や空き容器などを用意し、作って遊べる場も準備しておく。

◇ 段ボール箱の電車に一人で入り運転士になったつもりで遊んだり、保育者や友達の電車とつながってお客さんを乗せて走ったりして遊ぶ。帽子や切符などを作ったりする。

△ なりきっている気持ちや言葉を受け止め「〇駅に行ってください」など幼児のイメージに合った言葉を掛けていく。



◎ 曲をかけて踊る。

☆ 興味のある曲をすぐに踊れるように、運動会や生活の中で取り入れている曲を準備する。また、音やリズムも楽しめるように、扱いやすい手作りマラカスなどを用意しておく。

◇ 好きな曲に合わせて踊ったり、手作りの楽器を鳴らして音を楽しみながら踊ったりする。

△ 周りの幼児と一緒に楽しめるように、保育者も楽しそうに踊り、「楽しかったね」と幼児の気持ちに共感する。

今週の記録より

A児は運転士を気に入っている。今日は「先生、乗って」と何度も保育者をお客として誘っていた。「〇駅に着きました」「〇〇線は乗換えです」と自分から話すことも楽しんでた。B児は積み木の電車作りをしているが、視線は段ボール箱の電車で遊ぶC児を追っていた。C児はD児とつながって走ったり、紙に模様をかいた切符を作ったりして、二人で遊ぶことを楽しんでた。

保育者は、「Bちゃんも電車に乗る？」と声をかけたが「やらない」と言う。C児と同じことをしたいと思ったが、まだ早かったかもしれない。電車の数を増やし、B児が「やりたい」と言ったときにすぐに準備できるようにしていく。

B児はまず様子を見ているのかな。段ボール箱の電車の数を増やすのはよいですね。B児が数日間興味を示しているようならば、まずはお客さんとして誘ってみるのもよいかもしれませんね。



Q3

日々の保育記録はどのような視点で書くとよいですか。また、それをどのように生かしていくとよいですか。

A

- ・ 幼児の姿と保育者の援助と両方の視点を捉えて書きます。*Q2具体例

① 幼児の姿

心に残った幼児の行動や言葉や表情、変化、遊びへの取組など。

② 保育者の援助

幼児と関わって分かったこと、幼児への関わりや環境の構成は適切であったか、課題は何かなどの振り返り。

- ・ 記録から幼児の育ちを読み取り、反省・評価を積み重ねることや保育者同士が考えを伝え合うことで幼児理解の深まり及び指導力の向上などにつなげていきます。

担任の記録

園長のコメント

④ 環境の構成の考え方

Q1 環境の構成をするとは、どのようにすることですか。

A

- ・ 幼児の姿に即して、その時期にどのような体験を積み重ねることが必要かを明らかにした上で、活動に適した場や空間、遊具や素材、保育者や友達、時間、雰囲気、自然環境、社会環境も含めて、幼児が充実した園生活を展開できるような状況をつくっていくことです。

Q2 環境の構成を考える際に、大切にすることは何ですか。

A

- ・ **幼児の主体性**
幼児の中に興味や意欲が湧いてきて、自分から遊び出し、活動を展開することができるように、魅力ある場や空間や状況をつくり出すことです。
- ・ **保育者の意図（計画性）**
幼児が主体的に環境と関わり、豊かな体験を重ねていけるように、幼児の発達を踏まえ、幼児の興味や関心の対象、これまでの経験などを考慮して計画的につくり出すことです。

Q3 環境の構成をするとき、具体的にどのような視点をもつとよいですか。

A

- ・ **幼児の思いに合わせた場・空間・雰囲気**
幼児が何を楽しんでいるのか、どんな活動をしたいのか、その人数や規模はどの程度か、幼児の動線はどうかなどを考えながら構成します。
- ・ **様々な遊具・素材・数量・配置**
したいことや作りたいものがあっても、それに合った遊具や材料がなければ実現できません。数や量や形は適当か、どの場所に置くのか、今の幼児に扱えるものか、また保育者がどこまで準備しておくべきかなどを考えて構成します。
- ・ **やりたいことが十分にできる時間の保障**
幼児が活動に取り組むためには、多くの時間が必要になります。幼児が心と体を働かせて、選んだ遊びに納得できるまで十分に関わることができる時間を保障します。
- ・ **幼児の生活に沿った自然環境や社会環境、保育者の存在**
その場にいる友達や保育者、そのときの自然事象や社会事象も幼児の活動や体験の質に影響を与えていることを考慮して、環境の構成を行います。
- ・ **環境の再構成**
幼児の活動の状況に応じて、幼児と共に場を広げたり遊具を整えたりして臨機応変に環境をつくり変えていきます。

Q4 環境の構成の具体例を教えてください。

- 34 -

A 【具体例】 幼児の思いに合わせた環境の構成 (4歳児 6月 日案)

〔本日のねらい〕

友達と触れ合って遊ぶ楽しさを味わう。

〔内容〕

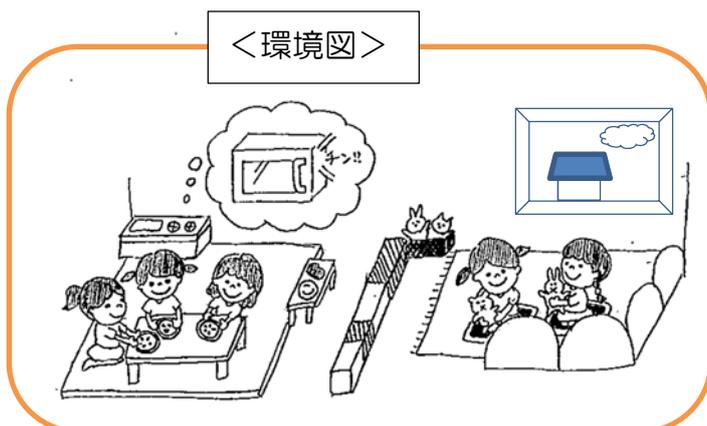
一緒にいたい友達と気に入った場でおしゃべりをしたり、同じような動きをしたりする。

昨日の幼児の姿

- ・ 気になる友達、好きな友達ができ始め、同じ場で過ごすことに心地よさを感じ始めている。A児、B児は、お母さん役になりきって赤ちゃんをあやしたり、ごちそうを作ったりすることを楽しんでいる。また、C児、D児、E児は粘土をピザやクッキーに見立てて遊んでいる。
- ・ 好きな友達と同じ場でおしゃべりをしたり、同じ物を作ることを楽しんだりしているが、お互いにしたいことがあるときなどに、思いがうまく伝わらず、ぶつかり合う場面が見られる。

<環境の構成>

- ◆ A児、B児、そして、C児、D児、E児がそれぞれの遊びが落ち着いてできるように、つい立を用意する。また、つい立は隣の遊びの様子が見えるような高さにし、お互いの雰囲気伝わるようにする。



- ◆ A児とB児の二人の居心地のよい家となるように、部屋の隅を利用し、かわいい座布団を用意したり、二人で同じようにお世話ができるようにぬいぐるみの数をそろえたり、壁に飾りを付けたりなどする。
- ◆ C児、D児、E児がピザやクッキーを焼いたり食べたりしながらお母さんやお姉さんらしくふるまって楽しめるように、段ボール箱で作ったレンジをコーナーに置いたり、紙皿やトッピングできる材料や鍋つかみなどを準備したりしておく。

<環境の構成としての保育者の援助>

- ・ 一緒に遊んでいる友達を意識できるように「〇〇ちゃんは星の形のクッキーで、△△ちゃんはハートの形のクッキーを作ってるのね」と、言葉を掛け、友達と同じように遊んでいる楽しさに共感します。
- ・ 隣にいる友達を意識し互いに思いを出し合えるように、必要に応じて、「お隣の〇〇ちゃんたちのクッキーは焼けたかな、いいにおいがするね」と、お互いの橋渡しとなる言葉を掛けたり、保育者がそばで見守ったりしていきます。

